



News Letter

「共に感じ、共に考え、共に悩み、共に楽しみ、共に生きる」を理念とし、住み慣れたご自宅で居心地のよい日常生活をご家族と共に不安なく過ごせるよう、一緒に支えます。

それいゆ訪問看護ステーション別府

〒675-0128 兵庫県加古川市別府町中島町26

☎079-441-8020

Topics

在宅の力

～お家での日常生活を続けられるように～

2号目となる今回は実際のご利用ケースをご紹介します。



利用者様プロフィール

70歳男性。誤嚥性肺炎にて入院後、24時間持続して点滴を実施している状態で退院。在宅での生活は4か月振り。ご家族での医療的ケアが難しく訪問看護サービスの利用を開始されました。

点滴の管理の難しさや、本人・家族様からの希望により、胃ろうでの栄養注入を行いました。その結果、点滴のときよりも栄養量を増やすことができました。点滴が中止となったことで動ける範囲が広がるなど、寝たきりの状態から様々な改善ができるようになりました。

Approach

栄養状態の改善により体力がついてきた利用者様に対し、

理学療法士 **作業療法士** **言語聴覚士** それぞれが得意分野を生かし下記の提案をしました。

PT(理学療法士)

[課題]

寝たきりから復帰したものの、歩行が不安定。転ばないためのリハビリを検討。

- すくみ足を声掛けと手拍子リズムで改善。杖を使うよう提案し、移動時の安定性を改善しました。その結果、ポータブルトイレから、自宅トイレの使用が可能になりました。

OT(作業療法士)

[課題]

自宅内で事故が起きないように環境の整備をすることに。

- ベッド周りの畳が滑りやすかったため、じゅうたんを敷いて滑りを予防し、より安全に動けるように。
- 新聞を取りに行く日課が続けられるように、ポストの位置を変えて行動の安全性を確保しました。

ST(言語聴覚士)

[課題]

痰や唾液が多く、肺炎の可能性あり。

- 棒体操や排痰練習により発声改善や痰量が減少しました。
- 唾液をおさえるアイスマッサージを指導し、肺炎を起こさないために家族様にもできることをご提案しました。

セラピストがそれぞれの得意分野を生かして協力したことにより、利用者様のQOL(生活の質)改善を図ることができました。